



神鋼石炭火力発電所増設の中止を！

兵庫県公害審査会で第一回公害調停開催

「神戸の石炭火力発電を考える会」は兵庫県公害審査会に「公害調停」を申し入れ、第1回調停が3月29日に開催されました。企業側の神戸製鋼所と関連会社、関西電力を加えた3社が調停に応じて、話し合いができました。

調停は非公開が原則ですので内容は記載できないのですが、協議が成立した場合には法的拘束力が生じます。その後、報告集会が開催され、世話人会选择して、次回調停を準備することになりました。そして神戸市内をパレードして、市民に訴えました。この神戸製鋼の石炭火力発電所からの排ガスの多くは西風によって大阪方面に多くが流れて来ます。大阪公害患者の会連合からも多くの人々が参加し、大きな声で、増設中止を訴えました。

「考える会」が訴えているポイントは5つで

①大気汚染物質を大量に排出し、ぜんそく患者への影響だけでなく、

- 住民の健康を損なう恐れがある
- ②27万5千ボルトもの高圧送電線の電磁波による周辺住民の健康リスクがある
- ③莫大なCO₂を発生させ、温暖化対策に逆行する
- ④大量の温排水によって海にダメージを与える



神戸市内をパレード

⑤不十分な環境アセスメントをやり直すこと。

事業者は、地球環境・地域環境保全のために 石炭火力発電所の建設を中止せよ

環境省・経産省に訴え

さらに同会は、「環境省の『電気事業分野における地球温暖化対策の進捗状況の評価結果』及び神戸製鋼の石炭火力発電所設置計画に対する環境大臣意見について(2018/4/04)」の声明を発表し、それをもって4月5日、環境省(環境影響評価課)を訪問し、神戸製鋼の石炭火力発電所計画中止を訴えました。

「700世帯が住む団地から400メートルの位置で、最悪の立地だ」「既設の2基は、22年前に震災復興名目で建設したが、今回の2基増設は絶対やめてほしい」「神鋼は2006年にも排出データを改ざんしたが、今回も製品データを改ざんした。市民からの

信頼はない」「嘘とデタラメの事業者見解が掲載されていた。現状のアセス制度は欠陥だらけ、是正すべきだ」「説明会で4回も請求したのに、総排出量を示さない。審査会の委員に指摘されて、神鋼が渋々出したが、SO_x、NO_x、煤塵はどれも増えるものだった」「世界の流れに逆らって今なぜ石炭火力なのか？」など。これに対する環境省の回答は、「環境省には止める権限がない。発電所の許認可は経産省」などでした。

翌6日に経済産業省(電力安全課)を訪れ、「経産大臣の『勸告』は地域住民等関係者の理解・納得が得られるよう、誠意をもって丁寧かつ十分な説明を求めている。どうするのか？」とただすと、経産省は「神鋼は住民に説明するか確認する」と回答しました。

大阪から公害をなくす会

第39回 総会開催のご案内

日時 6月14日(木) 午後6時30分～

場所 大阪民医連 会議室

地下鉄「堺筋本町駅」下車 ⑨番出口から
北へ徒歩3分、創建本町ビル2階